
今後のスケジュールと 点検報告書構成イメージについて

2019年12月
中央環境審議会
総合政策部会事務局

総合政策部会における点検スケジュール

【点検スケジュール】

●2019年度【第1回点検】

12月20日 総合政策部会 点検①

3月 2日 総合政策部会 点検②

●2020年度【第1回点検】

6～ 7月 総合政策部会 各部会からの報告

11～12月 総合政策部会 点検報告書取りまとめ

●2021年度【第2回点検】

●2022年度【第2回点検及び最終的な点検】

第五次環境基本計画の第1回点検分野

【第2部第2章「重点戦略ごとの環境戦略」の第1回点検分野と担当部会】

総政部会点
検①
【12/20】

総政部会点
検②
【3/2】

「重点戦略」	担当部会
1. 持続可能な生産と消費を実現するグリーンな経済システムの構築	
（1）企業戦略における環境ビジネスの拡大・環境配慮の主流化	総合政策部会
（3）金融を通じたグリーンな経済システムの構築	総合政策部会
2. 国土のストックとしての価値の向上	
（1）自然との共生を軸とした国土の多様性の維持	自然環境部会 水環境部会（海洋環境の保全、健全な水循環の維持回復の部分）
（2）持続可能で魅力あるまちづくり・地域づくり	総合政策部会
3. 地域資源を活用した持続可能な地域づくり	
<環境で地域を元気にする地域循環共生圏創造のためのプラットフォーム構築>	総合政策部会
（1）地域のエネルギー・バイオマス資源の最大限の活用	地球環境部会 循環型社会部会（バイオマス資源関係）
（3）都市と農山漁村の共生・対流と広域的なネットワークづくり	総合政策部会
4. 健康で心豊かな暮らしの実現	
（3）安全・安心な暮らしの基盤となる良好な生活環境の保全	
・健全で豊かな水環境の維持・回復	水環境部会
・化学物質のライフサイクル全体での包括的管理	環境保健部会
・マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策の推進	水環境部会

その他の点検分野

【第2部第3章「重点戦略を支える環境政策」の第1回点検分野と担当部会】

「重点戦略を支える環境政策」	担当部会
1. 気候変動対策	地球環境部会
2. 循環型社会の形成	循環型社会部会
4. 環境リスクの管理	
(1) 水・大気・土壌の環境保全 (大気関係を除く。)	水環境部会 土壌農薬部会
(2) 化学物質管理	環境保健部会 土壌農薬部会

【第4章 環境保全施策の体系の点検】

環境白書の取りまとめを通じ、「環境保全施策の体系」に係る取組の進捗状況の点検を行う

第2回点検分野について

第2回点検分野の設定に当たっては、第1回点検分野で選定しなかった項目及び第1回点検分野として取り上げた項目のうち、進捗状況を確認する必要がある項目を重点的に点検する。さらに最終的な点検年次である2022年度においては全体的な進捗状況を確認し、第五次計画の総括を行う。

(参考) 点検の視点

各部会は、重点戦略全体を俯瞰しながら、

- 各部会の担当部分に記載されている施策が実施されているか、取組の弱い部分はないか、効果は生じているか、足りない施策はないか。
- 担当分野における環境保全上の効果に加え、他の環境保全上の効果が発揮できるような施策になっているか、そのための施策はいかにあるべきか。
- 経済・社会面での効果はどのくらいあるのか、経済・社会面での効果を高めるためにはどのような取組があり得るか。
- 関係府省等他の施策とどのように有機的に連携できるのか。
- 地域循環共生圏の創造にどの程度貢献できているか。
- 経済社会システム、ライフスタイル、技術といったあらゆる観点からのイノベーションの可能性があるか。

という観点からも、必要に応じ、確認、検討を行う。

○上記の点検を行うに当たっては、必要に応じ、点検分野に関する具体的な取組事例（事業者、自治体、NPO等）、関係省庁に係るヒアリングや調査などを行い、現場における課題やニーズを明らかにする。

(参考) 点検に当たっての指標の活用

○重点戦略

- ・重点戦略に関する指標等を活用する。

なお、特に重点戦略の進捗は指標だけで測れない面もあることから、指標のみで進捗を判断するのではなく、全体として重点戦略が進捗したかどうかを定性的及び定量的の両面から評価することとする。

○重点戦略を支える環境政策

- ・「気候変動対策」、「循環型社会の形成」、「生物多様性の確保・自然共生」については各分野の個別計画に位置付けられた指標を活用する。
- ・「環境リスクの管理」のうち「(1) 水・大気・土壌の環境保全」、「(2) 化学物質管理」については本計画に位置付けられた指標を活用する。

○共通事項

- ・重点戦略に関する指標、重点戦略を支える環境政策に関する指標ともに、必要に応じて適宜見直しを行い、それを反映する。特に、重点戦略に関する指標については、定量的な評価のみで進捗を判断することが困難な場合が多いことに留意。

第五次環境基本計画の進捗状況等評価のための指標に関する検討委員会

- 第五次環境基本計画の進捗状況を測る指標の在り方について検討することを目的とした検討会を開催予定

(委員)

- * 浅野 直人 福岡大学 名誉教授
- 森口 祐一 東京大学大学院工学系研究科 教授
- * 大塚 直 早稲田大学法学部 教授
- 蟹江 憲史 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授
- 袖野 玲子 芝浦工業大学環境システム学科 教授
- 藤田 壮 国立環境研究所 社会環境システム研究センター長
- * 高村ゆかり 東京大学未来ビジョン研究センター 教授
- * 諸富 徹 京都大学大学院経済学研究科 教授

* 総合政策部会委員

(検討スケジュール案)

- 【第1回】 12月20日
- 【第2回】 2020年2月頃
- 【第3回】 2020年3月頃

第1回点検報告書構成イメージ

1. 環境・経済・社会の状況（2018・2019年度）

環境・経済・社会の状況について指標を用いつつ概況を説明

2. 重点戦略の進捗（第1回点検分野）

1. 持続可能な生産と消費を実現するグリーンな経済システムの構築

（1）企業戦略における環境ビジネスの拡大・環境配慮の主流化

（環境ビジネスの拡大）

- ・ 2018年度2019年度の取組の進捗状況
- ・ 定量的な取組の進捗
- ・ 総括（課題及び今後の取組方針）

⋮

○評価

- ・ 重点戦略ごとの指標の動向
- ・ 総括的な評価

2. 国土のストックとしての価値の向上

（2）持続可能で魅力あるまちづくり・地域づくり

⋮

3. 重点戦略を支える環境政策の進捗（第1回点検分野）

各部会からの報告を基に作成